

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
 (文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。)

第4回生物多様性日本アワード「優秀賞」を受賞 第26回・緑の環境デザイン賞「国土交通大臣賞」表彰式



公益財団法人イオン環境財団が主催する「第4回生物多様性日本アワード」において、126プロジェクトの中から、当法人申請のプロジェクト「市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ『ふるさとの川』に再生・復活」が、「優秀賞」(4プロジェクト)を受賞した。

10月20日、国際連合大学のウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)にて授賞式が開催され、岡田卓也公益財団法人イオン環境財団理事長より、小松幸子理事長と渡辺豊博専務理事が、表彰状と副賞の贈呈を受けた。授賞式には、志村肇理事、速水洋志理事も出席した。映像を示してのプレゼンは、渡辺専務理事が行ったが、会場には、TVキャスターやコメンテーター等の著名人の姿も多く、各界の関心の高さが伺えた。交流会で話が弾み、その後のGW三島への視察実現に繋がった。



第26回「緑の環境デザイン賞」(主催:公益財団法人都市緑化機構・第一生命保険株式会社)において、三島梅花藻の里「泉トラスト運動」の買収地と三島梅花藻の里を一体的に整備する当法人の緑化プランが「国土交通大臣賞」を受賞。11月9日、ホテルオークラ東京にて、表彰式が開催された。

表彰式では、土井亨国土交通副大臣より渡辺豊博専務理事へ賞状が授与され、渡邊光一郎第一生命保険(株)代表取締役社長より助成目録が贈呈された。加藤正之理事、村上茂之事務局員も出席した。

源兵衛川が三島ブランドに認定更新



10月20日、三島ブランド認定交付式が三島商工会議所TMOホールにて行われ、越沼正理事が認定書を受け取った。源兵衛川は、平成21(2009)年に三島ブランドに認定され、今回は2回目の更新となる。

今後も、「水の都・三島」を代表する源兵衛川の美しい水辺環境を維持していく努力を続けていく。



審査委員長の進士五十八東京農業大学名誉教授からは、近隣の緑や水の環境資源とのネットワークを形成し、絶滅危惧種ミシマバイカモの保全等、生き物をとおした子供たちの環境教育の場を創出する点へ高い評価をいただいた。

この取り組みの第1歩として、1月8日には、「三島梅花藻の里」の西側隣接地にて「三島・緑と水の杜・三島梅花藻の里」整備工事・地鎮祭を開催した。三嶋大社神主、来賓や関係者、地域住民、GW三島スタッフ等が参加。これまで多くの署名や募金を寄せてくださった方々の思いにも感謝しつつ、強風の中、三嶋大社の神主のもと、小濱修一郎理事の進行により、約1時間の地鎮祭を執り行うことができた。また、模型付きの設計図を示して、設計者側から整備図の説明もあった。

人々の願いを受けて、整備工事は、地下水位等の状況を確認しながら、平成28(2016)年3月の完成を目標に実施していく。





ネパールから、ようこそGW三島へ

11月5～6日、ネパール日本友好協会のスレンドラ・クマル・シトウラ顧問を団長に計6人が、源兵衛川の水辺再生やバイオトイレの機能を学ぶためにGW三島を訪問。5日は、市内散策や実践地視察等。6日は、ネパール大地震の被災地の現状を学び、今後の適切な支援について方向性を定めるための座談会を開催し関係者が参集した。両国の友好を深めつつ、交流のより良い成果を期待したい。

三島市内散策・GW三島実践地視察



11月5日、GW三島の事務所に到着した一行を、小松幸子理事長と越沼正理事が出迎えた。また、5月にGW三島から支援でネパールを訪問したスプリチャル・修平ルイス事務局長も、再会を喜んだ。

楽寿園では菊まつりのハイライト・菊で飾られた天空の城・備中松山城に感激。山本実生事務局長も同行した。満水に近い小浜池を背景に記念撮影を撮り、やがて、源兵衛川では感動して、澄んだ湧水の流れをじっと覗き込んでいた。

三島梅花藻の里では、生物学が専門のシトウラ顧問が、ミシマバイカモやその他の植物にも関心をもっていた。



三島南高校の三南トープで、高校生の環境教育を視察。また、三津シーパラダイスや千本浜で「海」を体験し、夜は楽しい文化交流。

ネパール日本友好協会石岡博実名誉会長や、長年ネパールの児童の教育支援を続けている福井善徳さんも参加し、遅くまで語り合った。



2日目はFMラジオ出演でスタート



ボイス・キューのスタジオに全員が入り、小坂真智子パーソナリティーと渡辺豊博専務理事との「GW三島アクショントーク」で三島視察来訪の感想や、ネパール大地震の復興の様子などを語った。

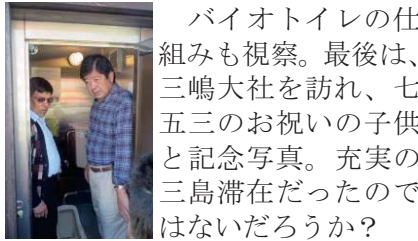
座談会「ネパールの現状と今後の支援のあり方」

11月6日、三島市民文化会館の3階大会議室で「ネパールの現状と今後の支援の在り方」をテーマに座談会を開催。コーディネーターは、渡辺専務理事(左)。登壇者は、左からビノド・ギミレさん(通訳)、スレンドラ・クマル・シトウラ顧問(トリブバン大学教授)、アスミン・シトウラさん、スパドラ・シトウラ・ウプレティさん、ラダ・デビ・ギミレさん、ビピン・ギミレさんで、ネパール日本友好協会に所属。



一行は、ネパール大地震の復興は、まだまだ進んでいないと窮状を訴え、地震に対する備えについてのノウハウを共有したいと述べた。また、教育がなければ国の発展はないので、教育への支援活動を最も望むと語った。

GW三島では、子供を招く交流事業や環境問題等を学ぶ学生を育てる人材育成事業を手掛けていきたいと述べると、「日本を訪れた学生は、帰国するととても積極的になる」とネパール側から一言。大きな期待が込められているようだ。



バイオトイレの仕組みも視察。最後は、三島大社を訪れ、七五三のお祝いの子供と記念写真。充実の三島滞在だったのではないだろうか？

三島梅花藻の里・環境整備構想ワークショップの開催

GW三島は、三島梅花藻の里と、それに隣接する湧水地のある土地を繋げて、新たな親水公園として整備するための、整備構想や今後の活用を考えるワークショップを開催した。



★11月7日「第1回ワークショップ」

参加した地域住民、都留文化大学の学生、GW三島のスタッフは、まず、三島梅花藻の里と隣接湧水地の現場の状況を確認した。その後、三島市民文化会館で、グループ毎に活用策や改善案を検討し、最後に話し合いの成果を発表した。



発表では「もっと子供が遊びやすいような工夫がほしい」「アク

セスの良さや源兵衛川に近いという立地が生かせないか」「安全や治安を考えた策が必要」との意見が出た。

★11月21日「第2回ワークショップ」

三島市民文化会館で、渡辺豊博GW三島専務理事を講師に、前回の内容を共有しつつ「追加出来ること」「緊急性」「優先順位」をテーマに検討・提案を行った。

各グループの発表は、まとめ方や内容も異なり、非常に面白いワークショップとなった。参加者には中学生もいた。三島梅花藻の里を守るために行った「泉トラスト運動」の署名・募金活動に多くの人たちの協力があったことを踏まえ、引き続き、ワークショップを根気よく開催し、より多くの声を反映していくということを確認した。





「三島の父」と呼ばれた人

三島市名誉市民
佐野美術館創立者 佐野 隆一

明治22（1889）年8月1日、三島市久保町（現中央町）に生まれる。父米吉は「秋月」という和菓子屋を営み、その独創的な和菓子で評判であった。幼児から利発で努力家、好奇心旺盛な少年であったといわれる。

三島市立南小学校から葦山中学校（現葦山高等学校）を経て、東京高等工業学校（現東京工業大学応用化学科）へ進み、明治43（1910）年卒業。同年8月、横浜製糖株式会社技師、大正5（1916）年、中村化学研究所技師を経て、大正14（1925）年、36歳にして合資会社鐵興社を創立した。工業学校時代の恩師、加藤與五郎先生の言葉、「決して人まね、物まねをしない」を常に研究・開発のモットーとして様々な製品を造り出していった。当時使い道がないといわれていた原料を使ってフェロアロイという合金鉄の製造に成功したのはその一例である。鉄に他の金属を混ぜるときに入れる添加剤として現在も使われている。

その後48歳で日本石英硝子株式会社取締役社長、50歳で株式会社鐵興社取締役社長、62歳でプラス・テク株式会社取締役社長、64歳で日本カーボン株式会社取締役社長、66歳で東邦アセチレン株式会社取締役社長等々を歴任、化学工業の先覚者として、近代日本の発展に多大な貢献をした。

1日の仕事の後、家で自分が集めた古美術品を眺めるのを楽しみにしていたといわれる。「古美術品には昔の人々の知恵や工夫が詰まっている。それを学び、仕事に生かすのだ」と常日頃から言っていたという。収集品は日本画、能面、古鏡、装身具、古写経、陶磁器、朝鮮の仏像など、多岐にわたっているが、中でも日本の名刀の鑑賞が好きだったようだ。鉄の塊を、人間の手によって鍛え、究極の曲線美に仕上げられた名刀に、技術者として佐野氏が強く魅かれたに違いない。

昭和40（1965）年、勲二等瑞宝章が贈られる。同年、三島市からは名誉市民の称号も授与された。昭和36（1961）年から10有余年にわたり三島市に約2億円を寄付しただけでなく、市内東西南北4つの小学校のプール、旧市立図書館、市立緑町佐野保育園、養護老人ホーム市立佐野楽寿寮、精神薄弱者通所施設佐野学園、市立老人福祉センター（分館）、郷土振興基金の寄付等、長年にわたる三島市に対する多大な貢献を考慮すれば当然のことであった。さらに翌昭和41（1966）年、喜寿を迎え、郷土三島のために佐野美術館を設立。それまで集めた数々の美術品を寄付した。

当初、設立には次のような経緯があった。それは昭和38（1963）年から39（1964）年にかけて三島市、沼津市、清水町の住民たちによる石油化学コンビナート進出阻止運動と深くかかわっている。当時の長谷川泰三市長より、佐野氏が東京世田谷の自庭に美術館建設を予定していることを耳にした婦人会のメンバーは、佐野氏に「三島に造って欲しい」と嘆願。佐野氏は「コンビナートを阻止出来たら造ろう」という返事だった。阻止運動は功を奏し、約束通り昭和41年5月、佐野美術館が完成した。



現在の（公財）佐野美術館館長渡辺妙子さんは、佐野氏の次の言葉が忘れられないと言う。「美術品は、一つひとつ箱に入っています。箱には前と後ろがあります。箱の前をそろえてきちんと整理する。一つでも曲がって置けば、すべてが曲がってしまいます。一つをきちんとまっすぐに置けなければ、仕事もきちんとできません」。

日本の社会の発展を常に考え、築いた富を社会や郷土に還元した佐野氏は、実業家としての鑑といえる。「三島のお父さん」と呼ばれた佐野隆一翁は、昭和52（1977）年、87歳の生涯を閉じた。菩提寺は東本町の法華寺。

出典：『隆泉苑 —佐野隆一を知る—』佐野美術館発行

『創立40周年記念誌』佐野美術館発行

『文芸三島 第35号』三島市教育委員会

『聞き書き 三島の女性史』静岡新聞社発行

自然は人生の先生

「三島語りべの会」代表 齊藤 静雄さん(三島市新谷在住)



昭和13(1938)年8月29日、三島市(田方郡中郷村)新谷の農家に生まれた。中郷小、中学校を経て静岡県立三島南高等学校卒業後、農

家の4人姉弟の末っ子だったため、家の面倒を見なくてはならないとの親の助言で地元の会社に就職。しかし、20代後半に会社で仕事上のトラブルがあり、責任を取って辞めることになった。これが人生における第一の転換期となり、人生の見方が180度変わり「頼れるのは自分自身であり、自分を信ずること。次は家族だ」ということを学んだ。次の新しい職場では人にも恵まれた。ある日、生け花を見て、それが自然を超越した美しさで何か語りかけるように感じ感動した。まさに自然との対話であり、生け花をとおして自分の思いが出せれば良いと思い、若くして生け花を人生の趣味として始めた。「この世に出会いはいろいろあるが、多くを教えてくれるのは自然であり、まさに人生の先生である。自然が分かると人との接し方も分かる」と言う。



生け花展へ出品した
齊藤さんの作品

50代の頃、草月流の勅使河原宏家元の稽古で上京の折、新幹線駅ホームから富士山を眺めて、「今日まで自分はいろいろやってきたが、故郷のために何の恩返しもしていない。何か郷土のためにやりたい」と強く思った。その頃、仕事に行き詰まりを感じていたため、何のためらいもなく会社を辞めることにした。その時、妻が「好きなようにすれば」と言ったのを今でも覚えている。これが第二の転換期である。丁度その頃、三島市で生涯学習の一環として三島市の歴史を学ぶためのガイド養成講座や昔話の養成講座が始まり、特にふるさとの民話に興味を持ち、長谷川福太郎先生から多くを学んだ。この講座の修了後、有志で「三島語りべの会」を立ち上げ、代表となり三島の民話を見聞し、人に言葉をとおして伝えることを学んだ。生の言葉を使って郷土の歴史を伝え、勉強することで将来の夢が見えてくるように感じた。当時、東京電力が地元への還元事業として、各地域の小学校に「料理教室」や「語りべの会」の普及活動を行っていて、ここで広く活動することが出来た。現在は、公民館、福祉施設などで活躍し、演劇祭などにも出演している。方言はお国の手形であり、地域や家庭の空気の潤滑油であるので大切にしている。



三島市民生涯学習
センターでの生け花

「三島市ふるさとガイドの会」は、おもてなしの心を糧に、平成3(1991)年に発足し、初代会長を務めた。この会は郷土(ふるさと)を愛し、三島市への観光客や地域住民などを対象にガイド活動を行い、会員は現在65名ほど。将来は市民の皆さんがガイドになることを理想としている。



「三島市ふるさとガイドの会」で、子供たちにも案内

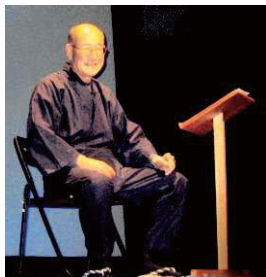
「三島茶碗文化振興会」への入会は、生け花と陶器との関連である。ある時、備前焼の花器を買った時、その花器に自然に付いた作者の指紋があり、それが深みと暖かさを感じさせ、花器と一致した花を生ける難しさを学んだことがあった。まさに自然との共存である。

今後の活動としては「三島語りべの会」と「生け花」そして「三島市ふるさとガイドの会」などがある。ガイド活動は体力的に無理になっていくが、幸い後継者が育っているので問題ない。人間は、社会で生きていくために企業の雇字搦め(がんじがらめ)の中で働かざるを得ないが、退職後は本音で生きられる。過去のプライドなどは捨て、世の中の様々なことに好奇心を持ち、いろいろな人と関わることで、より豊かな人生を送ることが出来る。

2年前、妻を亡くし、現在1人暮らし。1人息子は別に暮らしている。しかし、三島市文化芸術協会の活動や各ボランティア、更に「農園畑」で明け暮れる毎日は多忙で、しばむ時間はない。周りの人にも支えられ、ご縁の大切さに感謝し、生かされていることを実感している。座右の銘は『「ありがとう」が素直に言える人間になりたい』とのことでした。



「三嶋曆師の館」に
生け花の作品を展示



「語りべの会」で、
昔話を語る齊藤さん



しゃぎりの魅力に燃えて

「レッツエンジョイしゃぎり」広報担当
 本間 誠司 さん

昭和 35 (1960) 年、三島市に生まれる。20 歳で宅地建取引主任者の免許を取得し、父と共に不動産業を起業。結婚後は、1 女 2 男に恵まれる。(現在は、孫も 2 人)

平成 22 (2010) 年、摺鉦を叩いてみたいと外国人に言われ、知人が代表を務める「レッツエンジョイしゃぎり」へ連れて行ったところ、自分も魅かれて入会した。

「レッツエンジョイしゃぎり」は、年齢、性別、国籍、居住地域を問わずしゃぎりを楽しめる愛好会として、平成 16 (2004) 年に発足し、8 年後、NPO 法人に移行した。470 年余の歴史を誇る「三島の伝統芸能・しゃぎり」は、一時絶滅の危機もあった。伝統文化の継承を町内会単位の各保存会だけに依存するのではなく、しゃぎりと地域を結び付けることを目的に、1 年を通じ普及活動をしている。

「幼稚園児からお年寄りまで一緒に奏でる音は、個性的でおもしろい」と、本間さんは魅力を語る。平成 7 (1995) 年、パサディナ市のローズパレードでしゃぎりを披露した。

ネパールの子供たちと



GW三島とは、平成 5 (1993) 年、鎧坂ミニ公園の整備からのお付き合い。(社)三島青年会議所の一員として参加した。「国内外の人たちのしゃぎり体験の実施や、東日本大震災の復興支援の演奏など、GW三島には様々な活動にご支援いただき、本当に感謝している」と語る。

趣味は、しゃぎり息子さんが作った草野球チームでの野球、バンドでのベース演奏。「猪突猛進あるのみ」の信条どおり、スピーディーでパワフルな人柄。「おじいちゃんになっても息子や孫としゃぎりを楽しみたい」と笑う。



家族で楽しむ国際交流

三島市佐野見晴台在住
 (寄稿) 紀野 峰子 さん

北海道生まれ。大学卒業後、結婚。主人の転勤で東京、茨城、御殿場と移り住み、2004 年から 3 年間米国アイダホ州で暮らす。2005 年に双子が生まれ、帰国後、三島に居を構え、今年で 8 年になる。

GW三島との出会いは 2014 年春。フィリピンの学生 2 名を紹介され、数日受け入れた。その後、台湾、シンガポール、ネパールの学生も紹介してもらい、それぞれの国の政情や文化などを知り、大変勉強になっている。



ネパールからのゲストたちと

我が家の国際交流の主役は子供たち。外国からのお客が来ると、けん玉、折り紙など、日本の遊びを教えるのは 2 人の娘の得意芸である。簡単な英単語しか話せないが、手遊びやパソコンのゲームを教え合い、驚くほど早く打ち解けてしまう。主人は写真、旅行計画の担当。お客がいる週末は、富士山と伊豆周辺や、東京などへ小旅行に出かける。私は食事、洗濯、音楽担当。お客の国で人気のある歌や映画、食べ物を教えてもらうことを楽しみにしている。

若い頃の趣味は、登山や海外旅行で、タイ、中国、インド、エジプト、ヨーロッパなどへバックパックを背負い主人と貧乏旅行をした。家族 4 人になってからは専ら三島で国際交流。姉妹都市交流や日大留学生の受入れなどを積極的に行う。“一期一会”“来るものは拒まず”がモットー。体力作りに毎朝ジョギングをしている。

パッション No. 24

「三南トープ」は今

三島南高校は、平成 13 (2001) 年に南二日町から大場の地へ移転して、今年で 15 年目を迎えました。元々あった自然環境を残そうと、校地内にビオトープが造られました。グラウンドの拡張工事により、現在の位置に場所を移しました。「三南トープ」と命名し、本校生徒はもとより、地域住民の方々から親しまれています。

昨年 11 月には長年の念願であった井戸の改修を行い、地下 48m から毎分約 100 リットル自噴する清涼な湧き水が得られるようになりました。それ以前は、鉄分を多く含んだ茶色い地下水をフィルターでろ過して池に流していたため、ビオトープで調査研究活動をしている「サイエンス部」の生徒たちは、ろ過装置のフィルターを洗浄することが日課となっていました。水質が著しく改善されたことで、6 月にはゲンジボタルが舞う様子が見られました。

また、8 月には PTA をはじめ、有志生徒や大勢の方々の御協力により、ミナメダカやドジョウなど、池の生き物を一時的に水槽に避難させ、池の泥をすくい上げて空干ししたり、池の東側に湿地帯を新たに設ける工事も行いました。現在では、ワサビが葉を茂らせミシマバイカモも可憐な花を咲かせ、多くの野鳥たちも訪れています。

今年度は、2 年に 1 度の全国ビオトープコンクールの開催年にあたり、本校は、「日本生態系協会賞」を受賞しました。

ぜひ、みなさんも「三南トープ」を訪ねてください。

静岡県立三島南高等学校教頭 小野 聡



ビオトープの作業を終えて

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数	
10	4	日	富士山子ども探検隊④	富士山からの湧水の仕組みを学ぶ	富士宮市	21	
	5	月	環境教育(源兵衛川)	三島は富士山とつながっている!-源兵衛川の魅力と不思議-	三島市立南中学校	169	
	8	木	環境教育(源兵衛川)	三島長陵高校テーマ学習② 外来種除去・水生生物観察	源兵衛川、希少種水族館	16	
	11	日	朝日新聞文化財団	源兵衛川アート・ワークショップ	源兵衛川、市民活動センター	32	
	17	土	鎮守の森探検隊⑦	農業用水・里山の生き物観察と生態系	三島市大場	19	
	23	金	~24 実践活動(松毛川)	松毛川ワンデイチャレンジ(竹伐採/ツッパー)	松毛川	40	
	29	木	環境教育(源兵衛川)	源兵衛川水辺散策(三島南中学校)	源兵衛川	169	
	6	金	~7 源兵衛川ふるさとの川づくり	源兵衛川環境再生緊急ワンデイチャレンジ	源兵衛川	36	
	7	土	三島梅花藻の里	隣接湧水地保全、環境整備構想ワークショップ	三島市民文化会館	23	
	8	日	鎮守の森探検隊⑧	川辺で集めてネイチャークラフトに挑戦	山田川	17	
11	11	水	環境教育(源兵衛川)	「水の山・富士山」のパワーと「水の都・三島」の水辺自然環境の魅力	三島市立北中学校	72	
	14	土	富士山子ども探検隊⑤	富士吉田古道で歴史ある湧水地見学	山梨県富士吉田市	17	
	19	木	~20 職場体験	三島市立北中学校生による職業体験	GW三島実践地	4	
			環境教育(源兵衛川)	源兵衛川水辺散策(三島市立北中学校)	源兵衛川	72	
	20	金	~21 境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	15	
			三島梅花藻の里	隣接湧水地保全、環境整備構想ワークショップ	三島市民文化会館	20	
	26	木	環境教育(源兵衛川)	三島長陵高校テーマ学習③ 三島梅花藻の里整備作業	三島梅花藻の里	16	
	12	4	金	境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	20
		5	土	境川・清住緑地	収穫祭	境川・清住緑地	50
				トヨタ環境活動助成プログラム	大場里山観察会(水生生物)、ワンデイチャレンジ	大場里山	26
10		木	環境教育(源兵衛川)	三島長陵高校テーマ学習④ ふるさとの植生観察	大場里山	16	
			トヨタ環境活動助成プログラム	大場里山ワンデイチャレンジ	大場里山	5	
11		金	境川・清住緑地	環境整備ワンデイチャレンジ	三島市民活動センター	15	
12		土	境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	35	
13		日	トヨタ環境活動助成プログラム	大場里山観察会(植物)、ワンデイチャレンジ	大場里山	20	
19		土	腰切不動尊例祭準備	腰切不動尊 紅白の鈴の緒作り	三島市民活動センター	7	
24		木	トヨタ環境活動助成プログラム	大場里山観察会(水生生物)、ワンデイチャレンジ	大場里山	10	
1	26	土	農業人育成・都市型グリーンツーリズム	三島そば・そば打ち教室	三島農村カフェ	18	
	8	金	三島梅花藻の里	三島・緑の杜整備工事、地鎮祭	三島梅花藻の里西側隣接地	40	
	~9		境川・清住緑地	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	境川・清住緑地	20	
	9	土	境川・清住緑地	境川・清住緑地環境整備構想ワークショップ	西地区コミュニティ防災センター	28	
	17	日	富士山子ども探検隊⑥	富士五湖のほとりて動植物の観察	山梨県富士河口湖	20	
	23	土	鎮守の森探検隊⑨⑩	森の豊かさを学ぶ。まとめワークショップ	楽寿園、Via701	38	
	28	木	腰切不動尊例祭	祠の清掃、読経	腰切不動尊	14	
	環境出前講座: 静岡県立三島長陵高校(16+16)、三島南中学校(169)、三島北中学校(96)、(定例作業) ★三島梅花藻の里 17回 ★源兵衛川を愛する会 4回 ★鏡池ミニ公園 4回 ★せせらぎソニア元氣工房 毎週火曜日 ★境川・清住緑地愛護会 5回 ★宮さんの川 毎日 ★桜川 4回 ★雷井戸 14回 ★沢地グローバルガーデン 4回 (定例会議) ★インストラクター会議 4回 ★編集会議 9回 (委託事業) ★三島市フリーマーケット 3回 ★三島駅南口の整備を考える市民の会 4回						

月	日	団体名	人数	地域	
9	6	せせらぎ三島ロータリークラブ	18	静岡	
	8	クラブツーリズム	69	東京	
	9	東京大学大学院	7	東京	
10	1	金沢地区町内会	42	石川	
	8	栢ノ木婦人会	29	静岡	
	12	山梨市役所	20	山梨	
	17	J A 静岡	32	静岡	
	21	志太地区農業委員会協議会	32	静岡	
	29	静岡県企画広報地域外交課	1	静岡	
	13	農地保全研究部会研究集会	25	全国	
	14	きらり交流会議	4	静岡	
	19	さいたま市南区自治会連合会	56	埼玉	
	20	平原ゲンジボタルの里保存会	42	愛知	
11	28	~29 長野大学環境ツーリズム学部	17	長野	
	4	~6 石巻専修大学	6	宮城	
	5	~6 長野県・松代町若者会議	6	長野	
	12	~13 立教セカンドステージ	7	東京	
	12	台中市政府水利局	7	台湾	
	28	勝又製茶・GREENEST(株)	3	静岡	
	1	24	富士川地区区長会	23	静岡

袋井市の畑で野菜作り

9月30日~10月1日、GW三島では株式会社ホロネット(木船光章代表)との協働により、袋井市湊地区の農地約3.5haを活用し、野菜等の栽培を開始した。じゃがいも、にんにく、ジャンボにんにく、らっきょうの植付けを行った。

収穫した野菜は順次、三島街中カフェの店頭に並ぶ予定。



Google ストリートビュー 公開にGW三島が一役

2015年10月、Google マップの機能の1つでGW三島撮影の、三島市内や観光名所等22エリアを、臨場感たっぷり360度のパノラマ写真で見られるサービスが公開された。グーグルマップの右上にある黄色い人マークを、源兵衛川等へドラッグするだけでよい。三島市(17)、長泉町(1)、小山町(4)の各エリアを、ストリートビュー撮影機材「トレッカー」を担いで歩きながら撮影した。



三島市内の源兵衛川や三島梅花藻の里、境川・清住緑地、松毛川等の各エリアの公開は、全世界の方々が、「水の都・三島」の水辺自然環境や富士山の恵みを体感できると考える。

腰切不動尊「鈴の緒」付け替え

「地域の宝物」として、再生整備を行っている腰切不動尊。例大祭で紙芝居を披露した青木峯子さんの指導のもと、12月19日、参加者と一緒に「鈴の緒」づくりに挑戦し、新しい「鈴の緒」に付け替えることができた。



第4・5・6回 富士山子ども探検隊

第4回「水の山・富士山の湧水と信仰を知ろう!富士宮の湧水探検と神めぐり」

10月4日、「富士宮浅間大社」境内にある特別天然記念物「湧玉池」周辺樹木の観察方法について、菅原久夫・常葉大学非常勤講師/富士山自然誌研究会代表から説明を受け、葉の細かな特徴を観察した。「白糸の滝」では、水しぶきで滝の中腹部に見られる虹に参加者一同感動した。移動中、熊井陸・環境計量士が富士山の自然のしくみを説明し、「湧玉池」「おびん水」「陣馬の滝」の水質調査を行い、3カ所の湧水を比較した。最後は「人穴富士講遺跡」で、信仰のあり方を学んだ。



第5回「樹木と歴史を満喫!富士山の古道をウォーキング」

11月14日、山梨県富士吉田市、都留市にて自然観察と水質検査等。講師は熊井陸、環境計量士。田村和幸GW三島インストラクター。名水100選に選ばれた都留市夏狩地区の「太郎・次郎滝」は幅200mの溶岩から噴き出ている。滝が民家の下から湧き出しているような不思議な地形。また、紅葉の赤いカーペット、周囲に茂る緑の草木と滝の風景が素晴らしかった。北口本宮浅間神社では富士山の登山と信仰について学んだ。午後は、山中湖交流プラザきらら施設内で見学先の水質調査を行った。「富士山からの恵みを学んでみたい。それと共に人間の手によって崩されつつある自然の現状をどうしていくべきかを子供たちと体験、観察しながら考えていきたい」と感想が寄せられた。



第6回「富士五湖のほとりて動植物の観察」1月17日開催。

三島南中と三島北中で環境出前講座の講演

講師：渡辺豊博 GW三島専務理事

10月5日、環境出前講座の一環として、「三島は富士山に繋がっている！源兵衛川の魅力と不思議」と題し、南中1年生に講演。生徒は、三島と富士山の繋がり、源兵衛川の歴史や生態系について学んだ。汚染されていた頃の源兵衛川の写真を見て、今の美しい源兵衛川が三島市民の手によって蘇った過程に、心を動かされたようだ。

10月29日、GW三島インストラクターが、南中1年生に環境出前講座を実施。源兵衛川について学んだことを基に、フィールドワークを行った。白滝公園に集合し、源兵衛川や湧水について講義を受け、その後7グループに分かれ、鏡池、小浜池、ほたるの里、源兵衛川、三島梅花藻の里などを視察学習した。テーマを「源兵衛川の生き物」「環境破壊、環境改善」「富士山との繋がり」の3つに絞り、熱心な質疑応答を行い、各班毎まとめを発表した。



11月11日には、北中にて「水の山、富士山のパワーと『水の都・三島』の水辺自然環境の魅力学ぶ」と題して講演。10月中旬より北中生は総合学習の時間に三島について調査学習している。今回は、富士山からの湧水に恵まれた三島について学んだ。生徒の中には、かつて環境悪化により汚染された源兵衛川や源兵衛川と富士山との繋がりを知らない生徒も多く、講演の内容に感嘆の声も聞かれた。

11月19日には、南中と同様、GW三島インストラクターの案内で現地の視察学習をした。

鎮守の森探検隊

- 第7回「里山の貴重な生き物を観察しよう」
- 第8回「ふるさとの森を観察して、自然の恵みを再利用しよう」
- 第9回「楽寿園にて冬鳥と樹木の観察」

10月7日、静岡県立三島南高等学校の「三南トープ」(ピオトープ)と三島市大場の里山エリアでの観察会を開催。講師は加須屋真・常葉大学非常勤講師。水田、休耕田、湿地帯、水路等に生息する生物に触れ、里山の魅力を満喫した。



11月8日、三島市の山田川自然の里を散策。森の豊かさを学び、木の実や落ち葉を採取しネイチャークラフトに挑戦した。講師は小澤緑・富士自然観察の会運営委員/富士市こどもエコクラブサポーターと川邊眞理・静岡県環境学習指導員/日本自然保護協会指導員。人の手が加わって出来た里山の森は、人が責任をもって管理し続け生態系を守っていくことが大切と学習した。

三島長陵高校・環境出前講座

10月8日、源兵衛川第2ゾーン上流部にて外来種(トキワツユクサ)の除去活動を実施。講師は加須屋真・常葉大学非常勤講師。例年以上に水量が多い中、草刈鎌を持ち、水にぬれながらの作業であった。その後、生態系ミニ講座を実施したが、作業後ということもあり、生徒は、より実感が持てた様子であった。



三島そばの収穫・脱穀作業を体験



10月31日、そばづくり隊と三島市内外の人々が参加し、元山中のそば畑で「三島そば」の収穫・脱穀作業を行った。

収穫は鎌で刈り、足踏み脱穀機を使った昔ながらの作業も行った。参加者は、富士山と海が見え野鳥の声も聞こえる農村風景に癒された。その後、乾燥、選別、製粉の工程を経て、12月26、27日には新そばを使った「そば打ち教室」が開催された。(主催：三島・農業人育成・都市型グリーンツーリズム推進協議会、共催：GW三島)

北中学校2年生が職場体験(三島市の「ゆめワーク三島」の一環)



11月19、20日、三島北中2年生(男女各2名)が職場体験。1日目：三島梅花藻の里では、ミシマバイカモに付いた汚れを除き、ほうきで撫でながら水草に空気を入れる作業。三島街中カフェ1号店では、開店前の店内外の掃除や野菜の袋詰め作業。午後は、せせらぎ水族館の水槽掃除。専用のブラシで側面、水草や石に付いた汚れ等を除き、見違えるほど綺麗になった。

2日目：御園の畑で豆類の種まきや雑草取り。作業中に地元の女性が声を掛け、若者が農作業をしている姿を見て喜んでいた。また1号店では、無農薬野菜や惣菜の紹介を書いた商品ラベルの手入れをした。元山中の畑では、作物の説明を聞き、玉ねぎの植付けに挑戦。農作業は疲れたようだったが、普段食べている野菜がどのように作られているのか分かり、満足した様子だった。

長野大学&上田市の視察者・ヤマボウシを記念植樹



偶然ながら、知人より譲り受けたヤマボウシは、長野県からのものだった。

11月28、29日、長野大学の松下重雄准教授と学生、長野県上田市地域づくり講座生や関係者が、GW三島の実践地視察等を行った。一行は、市民手作りのガーデンも視察。沢地グローバルガーデンでは、小松幸子理事長がガーデンの成り立ちや現状を伝え、ガーデンのミニ図鑑を配布。その後、一緒にヤマボウシを記念植樹した。

参加者からは、「最近、木を植えるなんてことがないので、貴重な体験になった」「地域や様々な人々で作りあげたというこの庭は、ここにしかない温かさを感じることができた」「『人々の交流の場』としてのガーデンは構想が素晴らしい。参加者ノートに、子供や外国の方々のコメントもあり感心した。人も植物も多様で、いい」「また、来たい」等々の感想が寄せられた。



三島市内の写真集



撮影者：みしま こまち
 撮影場所：楽寿園の小浜池
 ひとこと：平成27(2015)年9月15日の小浜池では、富士山からの澄んだ湧水が満水に近い状態になっていました。湧水は、青空や緑陰を映し、懐かしい時代を思い起こさせました。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Eメールに添付し、GW三島事務局までお寄せください。
 Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付

ありがとうございます！

皆様からの募金の趣旨を生かし、大切に使用させていただきます。

*三島梅花藻の里泉トラスト運動
121,723円

*ネパール大地震支援募金
57,390円

合計 179,113円

境川 清住緑地ワンデイチャレンジ実施

11月20、21日、地域住民、都留文科大学の学生、GW三島のスタッフが参加。湿地部の草刈りとキノコやセイタカアワダチソウなど外来植物の伐採・抜根を実施。また、滝道雄・日本野鳥の会東富士支部副代表を講師に野鳥観察会を行った。

12月4日も同じ参加者が、引き続き、湿地部の草刈りと外来植物の除去を行った。

12月11日、都留文科大学の学生らが参加し、境川・清住緑地環境整備構想ワークショップを実施。改善点や今後の構想について意見を出し合った。翌12日、同学生と地域住民などがワンデイチャレンジを実施。今回は、湿地林でハンノキの間伐、水田の拡張、土羽水路の補修を行った。

GW三島では、この地を「富士山・境川・大湧水公園」とするよう、今後も活動を展開していく予定である。



大場里山地区・自然観察会&整備作業

■12月5日、三島市民、石巻専修大学と都留文科大学の学生、長野県松代町民等が参加。渡辺豊博専務理事が大場里山地区について解説し、伊豆縦貫道路が完成後の環境の変化、文化や歴史などを学んだ。

その後、加須屋真・常葉大学非常勤講師の指導で自然観察会を実施。ホトケドジョウやメダカの希少性を学び、広川建設・広川敏雄社長の指導で伊豆縦貫道路沿いの水路を整備した。



■12月13日、三島南高校の生徒、都留文科大学の学生、地域住民等が参加。菅原久夫・常葉大学非常勤講師の解説で、植生観察会を実施。その後、国土交通省が立会い、水田沿いの自然水路にホトケドジョウ（平成20年度、伊豆縦貫自動車道の着工前に国土交通省に保護され、国土交通省沼津河川国道事務所にて飼育された29個体）を放流。

その後、伊豆縦貫道路沿い造成水路に、ミクリ、セキショウ、フサモを植えた。午後は、雑木林を侵食している竹林を切り、竹破砕機でチップにした。今後も活動を継続し、環境改善を目指す。



源兵衛川アート・ワークショップの開催



10月11日、三島市民活動センターで源兵衛川について学んだ後、源兵衛川第2ゾーンへ移動。福島県いわき市出身の、光と虹のアーティスト・吉田重信さんの指導のもと、三角プリズム越しに周囲の景色を楽しんだ。

あいにくの天気だったため、川に鏡を沈め、光を反射させ、虹を作る予定を変更せざるを得なかった。その後、市民活動センターで、オリジナルフォトフレームを作製。源兵衛川のちゃんかけを貼り付けたものだったが、初めての体験で、参加者からは好評だった。



源兵衛川第1ゾーン、ワンデイチャレンジ実施

11月6、7日、市民、都留文科大学の学生、GW三島のスタッフが参加し、君が沢橋周辺を重点的に実施した。

両岸に繁茂した在来種のヨシやジュズ、外来種のハブなどの刈り取り、投棄されたごみや川底にたまった枯葉、枯木の除去などにより、およそ150袋分のごみとなった。滞っていた川の流が、この活動で元に戻った。



12月11日も同様の作業を下流から上流へ行った。草刈鎌や刈込鋏を使って約2時間、45リットルのごみ袋で70袋分とグリーンバッグ6個分の草木が伐採できた。

飛び出す編集室



10月30日、VN57号で取材の福井善徳さん（ネパールの子供たちの教育を支援）を囲んで、続きのお話を伺った。

昼食後、一緒に、菊まつり開始日の楽寿園へ散策に出掛けた。今回の大盆景は岡山県高梁市の天空の城・備中松山城がテーマで、菊が城を美しく飾っていた。

グラウンドワーク三島編集室（編集室メンバーは50音順）

ボランティアニュース（VN）58号の編集ほか

加藤 美穂	河田 恵美子	岸野 和子	城所 徂帝
小松 幸子	斎藤 彩子	本田 博子	前田 充子
水野 幾子	村澤 圭	山崎 多紀子	山田 勝造

GW三島事務局 主担当：山本 実生 副担当：村上 茂之